【病院の活動紹介】

福井県済生会病院の活動

〝急変時の迅速対応〟検討チームによる取り組み事例

福井県済生会病院　臨床工学部　五十嵐 茂幸

医療安全管理室　有田 光一

医療安全全国共同行動への参加

当院は平成 20 年 7 月の特別管理部会で 8 つの行動目標すべてに対し参加することが決まり、それぞれ多職種からなる 5～10 名のチームを作り、計 100 名近い職員が、ワークアウト形式で月 1 回程度の活動を実施してきた。これまで 8 回のチーム長会で作業の進捗状況を確認すると共に、合同発表会を 2 回開催し、本年 10 月にも最終発表会を企画している。

チームが行動目標を達成するための活動を行った結果、当院での従来のやり方を変える必要が生じた場合、チーム長は医療安全対策委員会に対し〝医療安全マニュアル（システム）変更申請書〟を提出し審議を受ける。〝変更申請書〟はこれまでに 14 件が承認されており、院内で実施後、リスクマネージャーによるラウンドで決められたことが適正に運用されているかどうかの確認も行われている。ラウンド件数は 10 件で、内 7 件が適正に運用されていた。

本稿では〝急変時の迅速対応〟検討チームによる取り組み事例について紹介する。

〝急変時の迅速対応〟検討チームによる取り組み事例

医療安全共同行動の開始と時を同じくして、当施設は AHA（アメリカ心臓協会）より日本の病院施設では初めて国際トレーニングセンター（ITC）開設の許可を取得した。過去の急変時対応からの学び及び救急蘇生率の向上を目指し、平成 20 年7月より心肺蘇生コースが稼働した。心肺蘇生コースは AHA ECC の BLS コース（4時間程度）・ACLS コース（2 日間）とプログラムを同じにし、AHA 公認インストラクター資格取得者（医師 14 名、看護師 28 名、臨床工学技士 3 名、事務 1 名）が指導に当たり、受講した職員へは AHA の認定カードを発行している。

当院では医師・看護師は BLS コース・ACLS コースは受講必修とし、他のコメディカル（医師看護師を除くすべての職員）は BLS コースを必修、ACLS は業務の現場において希望者を対象に実施している。現在までおおよそ 2 年を経過しようとしているが、医師の ACLS 受講は 88 名の 69%、看護師の ACLS 受講は 267 名の 49%、コメディカルの BLS 受講は 291 名の 84%となっている。

医師・看護師からは、胸骨圧迫の強さやマスク換気のタイミングについて、正しい方法は救命につながる重要なこと、2 分ごとの交代、用意しておくべき薬剤、チームワークの大切さを改めて認識したとのコメントがあった。また事務員からは、街中で AED を見ると「こわいなぁ」との思いがあったが、受講後不安が和らいだとの声もあった。

BLS 受講済の看護師（343 名）へのアンケートでは、急変時対応に対する不安度の調査において、すごく不安と感じていた割合が 67%から 17%にまで減少する結果が得られている。

院内における 15 台の AED の使用回数についても、心肺蘇生コース稼働前 3 年で 5 回に対し、稼働後では 34 回と急激に増加しており、患者急変時は CPR と同時に医師が到着するまでに、ま

ず AED を装着使用する体制に変わってきている。

現在までの蘇生成功例では、「入院中の 70 歳心不全患者が朝方病室で心肺停止、AED 施行・CPR 継続、医師到着後二次救命処置（ACLS）し、2 か月後退院」、また「小児病棟では、軟食提供患児に家族がりんごを食べさせ窒息状態になったが、BLS コース受講終了者が対応し、窒息を解除することができた」等の事例もあり、〝急変時の迅速対応〟についての心肺蘇生コースの取り組みは、確実に成果があがっていると思われる。